

支店長の わがまち紹介 第62回



つくば市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県つくば市です。つくば営業部長がつくば市長 五十嵐立青氏にお話を伺いました。

つくば市は「筑波経済月報」第14号（2014年9月）第14回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

■研究機関が多く、未来社会を先導するまち

つくばには国の研究機関のおよそ3割が立地し、民間を合わせるとその数は約150にも上り、約19,000人の研究者が働いています。先日、シリコンバレーと日本を繋ぐ数多くの実績を持つベンチャーキャピタルである(株)サンブリッジの創設者アレン・マイナー氏が本市を訪れ「この狭い範囲にこれだけの知が集まっている場所は、世界でもMITのあるボストンとイギリスのオックスフォードくらいだ」と話していました。また、文科省の鈴木寛大臣補佐官からも「つくば市ほどイノベーションにふさわしい地はない」という言葉をいただきました。

これまで成果が少なかったのは、一つひとつの



つくば市長
五十嵐 立青氏



つくば営業部長
佐藤 琢夫

関わりが弱いことが原因で、これを変えていくのが私の仕事です。今後はさらにイノベーションを起こすような働きかけや支援をしていきます。

昨年の市民意識調査で5割以上の市民が「科学のまちの恩恵を感じていない」という結果が出ました。そのため、本市では、AIやIoT、ビッグデータ解析などの最先端技術を活かし、市民生活の向上や新たな行政サービスなどに繋げる実証実験を全国から公募する「つくばSociety5.0社会実装トライアル支援事業」に取り組んでいます。テストベッドとして本市を使い、実際のサービスや製品に繋がれば科学のまちの恩恵を感じてもらえるの

ではないかと昨年から開始しました。今年も22件の応募があり、この後、5件の優れたトライアルを採択する予定です。このような形で、未来社会を先導する先進的な取り組みを全国に先駆けて推進し「世界のあしたが見えるまち。つくば」の実現を目指していきたいと考えています。

現在、多くの投資家や起業家から「一緒に組ませてほしい」「案件をつくばで作りたい」などの話をいただいています。本年4月に「スタートアップ推進室」を新設していますが、この期を逃すことなく、今年中に「スタートアップ戦略」を発表し、本市の研究機関で生み出された技術シーズの事業化などで、既存企業の躍進や新規産業の促進のための環境整備を進めたいと考えています。

本市は、国が2.6兆円という莫大な費用をかけて整備したまちで、全国の皆さまに恩返しすべき立場にあるため、サービス・雇用の面で地域に貢献するとともに、世界にヒントを与えるものを創り出し提供していくことが使命であると思っています。これに向け、まちづくりアドバイザーとして、ポートランドの山崎氏を中心市街地活性化の部門に、起業家の三浦氏をスタートアップの部門に、総理官邸でSNSによる情報発信を行っていた大瀬良氏を広報部門に登用するなど、分野を問わず良い人材を各地からリクルーティングし、職員の力をより引き出しています。

■「世界のあしたが見えるまち」へ向けて

本市は今年の2月の「つくばSDGsフォーラム」において「持続可能都市ヴィジョン」を公表し、3月には市議会で「市政にSDGsの理念を反映するための取組を求める決議」が採択されました。そして、6月に国が全国29の自治体を選定した「SDGs未来都市」に、茨城県内では唯一選ばれました。

これにより「つくばSDGs未来都市先導プロジェクト」として、子どもの未来、包摂的な社会、価値の創造と継承、ユニバーサルインフラ、循環と環境保全の5本の柱を立てました。

今後、企業、大学、研究機関、市民など様々な団体の方々と一緒に市民向けのワークショップなどを通じて、全市的にSDGsに取り組んでいきたいと思っています。

本市の生活困窮世帯の児童・生徒は要保護、準要保護を合わせると1,269人(2018年2月時点)、割合では6.3%になります。日本の子どもの貧困率(13.9%)に比べると低く感じますが、学校2つ分が貧困世帯であると考えれば、決して少ない人数ではありません。

そのため、平成30年度の学習支援モデル事業として、大穂地区、谷田部地区、桜地区の3カ所で、それぞれ約20~30名の児童・生徒を対象に、復習や宿題の習慣付け、安心して通える居場所の提供などを行っています。今後、全市的に広がっていきます。

これはSDGsの「誰一人取り残さない」という理念、本市の「持続可能都市ヴィジョン」とも一致しています。貧困の連鎖を断ち切ることは、大人の責任であり、子どもに対する教育は社会にとって意義のある投資です。今後も関係機関や団体と連携しながら、すべての子どもたちが、夢と希望を持って成長していけるよう支援してまいります。



平成30年度「SDGs未来都市」選定証授与式

■チャレンジすべきテーマ

私の考える最優先課題は教育であり、現在、教育委員と真剣に議論を交わしながら本市の教育大綱を作っています。近代公教育は産業のための人材を均質化して土台を作り、能力に応じて出世させるというものでした。世界最先端の大学やエリートは既にそのモデルが崩壊していることに気付き、飛ぶ鳥を落とす勢いのベンチャー企業の経営者たちも、自分の子どもたちを公教育ではなくインターナショナルスクールに通わせる時代です。公教育モデルはその枠組みを変換させる時期が来ています。

このようなことから、つくば市の「持続可能都

市ヴィジョン」にある「自分から働きかけ、変革を起こしていける人材」を育てていく取り組みを進めています。まず、大学や研究機関と連携し理数教育、プログラミング教育、芸術教育などの充実を図る「STEAM教育」¹を教育大綱の柱の一つにしていきたいと考えています。これにより、教科の枠を超え主体的に楽しく学び、創造性を獲得していく教育に移行させたいと思います。

さらに、異学年との交流や決められたカリキュラム以外の時間割を自分で決めるなどする、世界から注目を集めているイエナプラン教育²にも注目しています。私が理念とすることがほぼ網羅されているため、近々オランダの学校を視察し、どのような形で採り入れることが可能か検討していきます。

また、こういう自治体のインタビューで普段話題になることは多くありませんが、文化芸術にも力を注いでいます。文化芸術は、本来は人間の精神活動の根幹をなすもので、まちの成熟度も表します。本市ではこれまでも、ノバホールやつくばカピオにおいて、国際音楽祭や芸術文化公演などを開催してきましたが、今後はアーティストレジデンスなども積極的に支援し、市民がアートに触れアーティストと交流できるような場を作りたいと思っています。

その1つとして本市の特色である「科学」と「芸術」が融合した「メディアアートフェスティバル」を今年も7月に開催します。

さらに、20世紀の最も偉大なフルート奏者であるJ・P・ランパルへのオマージュという形でつくばフルートコンクールを開催します。ランパルの名を冠したフルートコンクールは開催を望んでもできるものではありませんが、世界的フルート奏者の登竜門として名高いパリ開催のランパルコンクールの第1回グランプリ受賞者でもありランパルの弟子でもある工藤重典氏を審査員に迎えて本市での開催が実現しました。科学技術だけでなく、文化や芸術があるまちとして成熟していけるようにしていきたいと思っています。

■つくばならではのまちづくりの展望

現在本市は待機児童が県内で最も多いまちです。人口が増加している数少ない自治体であり、

TX沿線の平均出生率は2.2%を超え、歓迎すべきことですが、逆に保育施設が不足する事態となっています。特に民間の保育園は深刻で、保育士が雇用できないため、思ったとおりの保育ができない状況です。保育士の平均給与は責任の重さや仕事の大変さに対して安く、他の業種に比べると約11万円低いといわれています。そのため、本市では民間保育園の保育士に対し、月額3万円の補助を行ったところ、全国で注目を浴び、同様の流れが広がりました。本市でも保育士の定着に繋がったとの声もありますが、潜在保育士の活用には、さらなる投資により保育士の処遇改善が必要だと考えています。移住・定住といいますが、最大のプロモーションは、まちがきちんと機能し、良い生活が営めることです。待機児童が多いまちへの移住は難しいため、今後さらに整備のために議論していかなければならないと考えています。

児童対策では、児童クラブを新たに3つの義務教育学校に公設公営で始めました。今まで保護者の負担で行っていたものを、順次、公設公営または民間委託に切り替えています。



平成29年4月にオープンしたつくば市立学園の森児童クラブ

■筑波銀行に期待すること

「出張子育て広場」としてつくば副都心支店のセミナールームを利用させていただき、非常に感謝しています。行政だけでできることには限界があり、パートナーシップなどで、様々な企業や団体の方々と重層的あるいは輻輳的な関わりが持てるかというのは、これからの行政の力の見せ所だと思っています。

これからも様々なご提案、ご協力をお願いします。

取材日：平成30年7月18日

写真提供：つくば市

1. STEM教育(Science Technology Engineering Mathematicsの横断教育で、ただの理系科目教育やプログラミング教育ではなく、社会や創造性と密接に結びついた総合的なもの)+Art Initiative
2. ドイツで始まりオランダで普及した1人1人を尊重しながら自律と共生を学ぶオープンモデルの教育。学級が異年齢の子どもたちによって構成されることが特徴